

府中第六中学校の生徒の皆さんへ（校則について）

どうして「校則」を見直すのですか？

近年、学校における一部の校則について、「必要なのですか？」「今の時代に合っているのでしょうか？」といったことがニュース等の報道で指摘されています。

府中第六中学校では、毎年少しずつ「生活のきまり」の内容を変更してきましたが、改めて、見直しをしていく必要があります。校則の見直しを通じて、生徒のみなさんが意見を表明し、身近な課題として捉え、自ら解決していこうとする姿勢を身に付けていくことはとても大切なことと考えています。

どのように変えていくのですか？

今回は「府中第六中学校 生活のきまり」の内容に関して、学級活動や生徒会活動の時間を使って、話し合い、みなさん自身で意見を出し合いながら考えていってほしいと考えています。

見直しの基本方針は、生徒のみなさんが**“考えるきまり”**です。日本には多くの「伝統文化」がありますが、その伝統はしっかりと継承していかなければいけません。しかし、その「伝統文化」も時代とともに変化します。「生活のきまり」に関しても同じです。社会が変化すれば、それに合わせて、必要と思われる部分に関しては、「生活のきまり」も変更していけばいいのです。その際に大切になることは、生徒のみなさんが目的を踏まえて主体的に考えることです。学級討議などの時間を使い、自分事と捉えて、主体的に意見を出し合い、議論して、「生活のきまり」の見直しを行ってほしいと考えています。

どのような内容に見直すのですか？

そもそも、校則は、学校が教育目的を達成するために必要かつ合理的な範囲内において定められるものです。児童生徒が心身の発達の過程にあることや、学校が集団生活の場であることなどから、学校には一定のきまりが必要です。また、学校教育において、社会規範の遵守（じゅんしゅ）について適切な指導を行うことは極めて重要なことであり、校則は教育的意義を有しています。

校則の意義（文部科学省 平成22年3月「生徒指導提要」より）

- 校則は、学校が教育目標を実現していく過程において、児童生徒が遵守すべき学習上、生活上の規律として定められている。
- 児童生徒が健全な学校生活を営み、よりよく成長していくための行動の指針として、各学校で定められている。
- 児童生徒が心身の発達の過程にあることや、学校が集団生活の場であることなどから、学校には**一定の決まりが必要である**。また、学校教育において、社会規範の遵守について適切に指導を行うことは極めて重要なことであり、校則は教育的意義を有している。

また、校則を制定してから一定の期間が経過し、学校や地域の状況、社会の変化等を踏まえて、その意義を適切に説明できないような校則については、改めて学校の教育目的に照らして適切な内容か、現状に合う内容に変更する必要があるか、また、本当に必要なものか、絶えず見直しを行うことが求められます。（文部科学省 令和4年12月「生徒指導提要」改訂より）

校則を自分のものとしてとらえ、自主的に守ることが必要になってきます。上記の内容を踏まえ、以下の点に留意して、「生活のきまり」の見直しを主体的に考えてほしいと思います。

<見直しにおける留意点>

生徒の「健全な学校生活」と「よりよい成長」のために以下の点に留意する。

- 「生徒一人ひとりの人権の尊重」
 - ・生まれもった性質（髪色や髪質など）を否定する生活のきまり、国籍や性の多様性を尊重できていない生活のきまりなどは見直しを行う。
 - ・自他ともによりよく成長するために、生徒が自己決定する場を大切にする。
- 「生徒一人ひとりへの健康上の配慮」
 - ・暑さ寒さへの対応や、活動しやすさへの対応などに選択の余地がないなど、健康上の問題を生じる恐れがある生活のきまりは見直しを行う。
- 「**社会の常識や時代の進展などを踏まえたもの**」
 - ・社会の常識と照らし合わせて適切と判断でき、時代の進展などを踏まえた生活のきまりとし、納得できる説明ができるものとする。